

発表会が終わって最初の登園日のバスの中。年中の男の子が、発表会の日のことを話し始めことをきっかけに、会話が盛り上がっていました。初めて発表会を経験する年少さんはどんなふうにしたのかと思い、おしゃべりに耳を傾けると……。『昨日レストランに行ったんだ』『雪、まだ残っているよ』『朝（テレビで）鬼のパンツ（の歌）見た』と朝の出来事や前日、前々日の思い出話。

発表会のことを忘れてしまったのかしら、と心配しましたが、そんなことはありませんでした。玄関ロビーのモニターに流れる発表会の映像を見て、『あの真ん中（のクラス）は僕だ！』『踊っているのは、きりんぐみ、ぱんだぐみ』とはしゃいでいる子がいました。



幼稚園で、いろいろな“初めて”を経験している年少さん。

もちろん発表会も初めて。

キラキラなライトがたくさんついた大きな舞台のことを忘れてはいませんでした。きっと今までに体験したことがなく、想像をはるかに超えた出来事だったので、なんて表現したらいいのか言葉が見つからなかったのでしょう。それが映像を見たこと、友達と出会ったことであの時感じたわくわく・ドキドキ感を思い出したようです。

思い出したようです。

自分の思いを表現するのは言葉だけではありません。画用紙を前にすると『ライト、描こう！』と言いながら、黄色・ピンク・オレンジなどいろいろなクレヨンを取り出していました。『私の好きな青もあった』と嬉しそう。発表会の当日を撮った映像をみんなで見た時には、耳や目からの刺激で自然と体がうきうきとしていました。自分のクラスの曲に合わせて踊る子、その動きをまねる子、曲が終わると拍手をする子など、気が付けばそこは発表会会場そのもの。みんなで体験した発表会だから、みんなが一緒になると思いがいきいきと表現できるのでしょう。



ビデオ観賞会が表現を楽しむきっかけとなり、翌日には『またビデオ見



たい』『曲かけて』と先生にリクエストする声がたくさんあがりました。『お客さんの席が要るよ』『〇〇ぐみのはどうやってやるかわからないから聞いてくる』ととんとんと子供たちが発表会を作っています。節分用に作った鬼のお面をかぶってお部屋から遊びに出かけた子が、他のクラスから流れる曲に誘われるとそのままダンスを踊ることもあるほど、発表会ごっこも魅力的なものになっています。

友達と一緒にいろいろな体験をして、表現の方法が広がりました。そして、発表会をきっかけに友達と思いを共有する喜びを感じているようです。発表会が終わって2週間。これからもいろいろなことを学んでいく子供たちの思いを受け止めて、次への成長につなげていきたいと思ひます。

